



## AI 時代における翻訳・通訳・言語教育

### 背景

AI 技術とテクノロジーの進化にもかかわらず、多くの人が言語、翻訳、通訳教育の重要性を認めています。しかし、AI 時代において、これらの教育をどのように進め、何を学習意義とするのかが課題となっています。本研究は、これらの問いに答えることを目的としています。さらに、これらの問いへの理解を深めることが大学教員の養成にどのように貢献できるのかについても探求します。

本研究の着想に至った経緯は、自身の経験と苛立ちでした。

2019 年に翻訳・通訳専攻の学生に英語を教え始めた時、あることに気がつきました。それは、筆者自身が翻訳・通訳の道を目指して語学を学んでいた頃から言語教育に大きな進歩が見られないということです。この気づきは、その後多くの先行研究を読むことで確信へと変わりました。それらの文献では、授業に翻訳・通訳を取り入れた言語教育、あるいは翻訳者・通訳者育成のための言語教育に関して、さらなる研究が必要であると強く提言されていたからです。本研究は、こうした要請に応えるものです。もう一つのきっかけは、AI に対するある種の苛立ちでした。一部の人々は、人間による翻訳と通訳はいずれ廃れる運命にあり、結果として翻訳、通訳、専門的な言語教育は時間の無駄だと考えています。このような見解は、言語、翻訳、通訳に対して、ある一つの強い見解が世論を形成しているということを示唆しています。

しかし、現実はより複雑であり、新たな視点からの見解が必要とされると筆者は考えます。本研究は、そうした新たな見解の一つとなることを目指しています。

## 参加方法

本研究についてさらに詳しく知りたい場合は[こちらからご覧ください。](#)  
本研究への参加者は2025年8月まで受け付けており、インタビューに関しては2025年10月から2026年1月にかけて行う予定です。

(質問に関しては、[cg559@exeter.ac.uk](mailto:cg559@exeter.ac.uk)までご連絡ください。メールは英仏中日西語で対応可能)。

## 自己紹介



セリーヌ・ガーブット。大学院教育学研究科の博士課程研究員。本研究は、高等教育における翻訳、通訳、言語教育の交差となる教育学的実践「U-TILE」(学部課程の翻訳、通訳、言語教育)を探求するもので、ESRC、SWDTP\*の資金援助を受けています(\*経済社会研究会議、イングランド南西部博士課程研修パートナーシップ)。

## 参加する利点

本研究にご参加いただくことで、以下のようなメリットがあります。

- 言語、翻訳、通訳教育研究に対するみなさんの考えを共有できます。
- 教育に対して常に向上心を持つ教育者や関係者のネットワークの一員になることができます。